

「精神科を受診する患者さんが新型コロナウイルス感染のリスクをどう考え、医師の感染防御が治療関係やリスク感にどのような影響を与えるか」の研究について

**【研究の目的・意義】**治療者と患者さんの関係は、精神科治療の7-15%を占めると言われています。良好な治療者と患者さんの関係を保つことは精神科治療に重要です。中でも共感や誠実性は良好な関係に重要な要素といわれており、こういった情緒的な交流に表情が必要といわれています。

しかし、今回の新型コロナウイルス感染症のようにどのくらい怖いものかリスクが不確定な場合、精神科医も感染防御のためマスクや飛沫防止のシールドを用いる必要があります。そうすると、表情は隠され、情緒的な交流は多かれ少なかれ損なわれるかもしれません。

しかし、これらの感染防御手段が、治療者患者関係へどの程度悪いのか、患者さんの感染防御への安心感をどの程度高めるかはわかっていません。これを明らかにするのが本研究の第一の目的です。

さらに、この時に考慮すべきは、精神科を受診する患者さんは一様ではなく、様々な疾患を持っているということです。患者さんによって新型コロナウイルス感染症のリスク感が異なるかもしれない。そうすれば、感染防御が患者の安心感を高めるメリットや医師患者関係を損なうデメリットも患者さんによって異なる可能性がある。このように、どのような患者さんが新型コロナウイルス感染症にどのようなリスク感を持っているかを明らかにするのが第二の目的です。

これらの結果を通じて、今後の起こり得る感染症への精神科での防御手段をどのように維持するのかあるいは改善するのか提言を行うことを目的としています。

**【研究の方法】**対象は2020年4月27日から9月30日までに当院を再診した患者さんです。アンケートから得られた情報を分析します。アンケートではマスクや透明の衝立が話やすさや感染の不安に与える影響、通院の不安、新型コロナウイルスのリスク感を選択式で伺います。分析では、個人が特定されない状態で解析し、結果も個人が特定されない状態で公表します。学術学会や論文、当院ホームページでの結果の公表を予定しています。

本研究は京都大学医学研究科・医学部及び医学部付属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施しています。

**【使用するデータ】**アンケート内容、性別、年齢、診断名、社会保障の有無を使用します。データは大橋クリニックで個人が特定できないようなデータとし（匿名化）、京都大学で分析します。

**【研究期間】**2020年4月27日～2021年3月31日(アンケート配布は2020年4月27日から2020年9月30日、データ解析は2020年10月1日から2021年3月31日)

**【研究機関名】**京都大学医学研究科 社会健康医学 健康増進・行動学分野

**【利益相反】**特に資金は必要ないが、必要な場合は運営交付金を使用します。利益相反について、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規定」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査・管理します。

**【個人情報保護について】**個人情報は守られ、患者さんの氏名、住所など、ご本人を特定できる一切の個人情報が公表されることはありません。

**【研究責任者】**京都大学医学研究科社会健康医学専攻健康増進・行動学 古川 壽亮

**【本研究に関するお問い合わせ先】**京都大学医学研究科・社会健康医学健康増進行動学分野 担当者：今井 必生 電話：075-753-9491, E-mail: ohashicl777@gmail.com  
京都大学医学研究科 総務企画課 研究推進掛、(Tel) 075-753-9301、(E-mail) kikaku06@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp